

滋賀県衛生科学センターだより

No. 29

2021年12月

編集発行 滋賀県衛生科学センター

〒520-0834 大津市御殿浜 13-45

Tel 077-537-3050 Fax 077-537-5548

e-mail: eh45@pref.shiga.lg.jp

HP: <https://www.pref.shiga.lg.jp/eiseikagaku/>

所長に就任して



令和3年4月1日付で所長に就任しました、吉田です。

以前は当所でウイルス学的調査・研究を担当しておりましたが、その後保健所や県庁勤務を経て、16年ぶりに当所勤務となりました。

衛生科学センターは、一般の方には馴染みのない機関であるため、一体何をしているところかと思われるかもしれません。

当所は感染症・食品安全・飲料水・放射性物質等に係る検査・調査研究および健康科学情報の収集・分析といった、健康に関わる業務を担う機関となっています。

昨年（令和2年1月）から、新型コロナウイルス感染症が大きな社会問題となっているところです。当所においても保健所が調査した患者の方や接触者の方の検体を受け入れ、新型コロナウイルスの検査を実施してまいりました。現在では、病院や民間の検査機関でも検査されるようになりましたが、発生当初は県内で対応できるのは当所だけであったため、職員総出で検査対応に当たってきたところです。

過去にも、腸管出血性大腸菌の大規模発生や東北の原子力発電所事故などの危機事案の発生に関連し、緊急的な検査・調査・情報発信を実施してきました。

こうした危機事案に対応するため、常日頃から情報を収集し、感染症や有毒物質などの健康被害に関する検査についても速やかに実施できるよう、情報収集や技術継承を行っているところです。

また、原子力発電所の事故による放射線量の上昇や、感染症の異常発生を探知するために、平常時のデータを継続測定し、ホームページなどで情報発信しています。健康に関係する様々な情報を収集していますので、是非、当所のホームページを覗いてみてください。

滋賀県衛生科学センター所長 よしだ 吉田 ともこ 智子

滋賀県における新型コロナウイルス感染症の感染動向

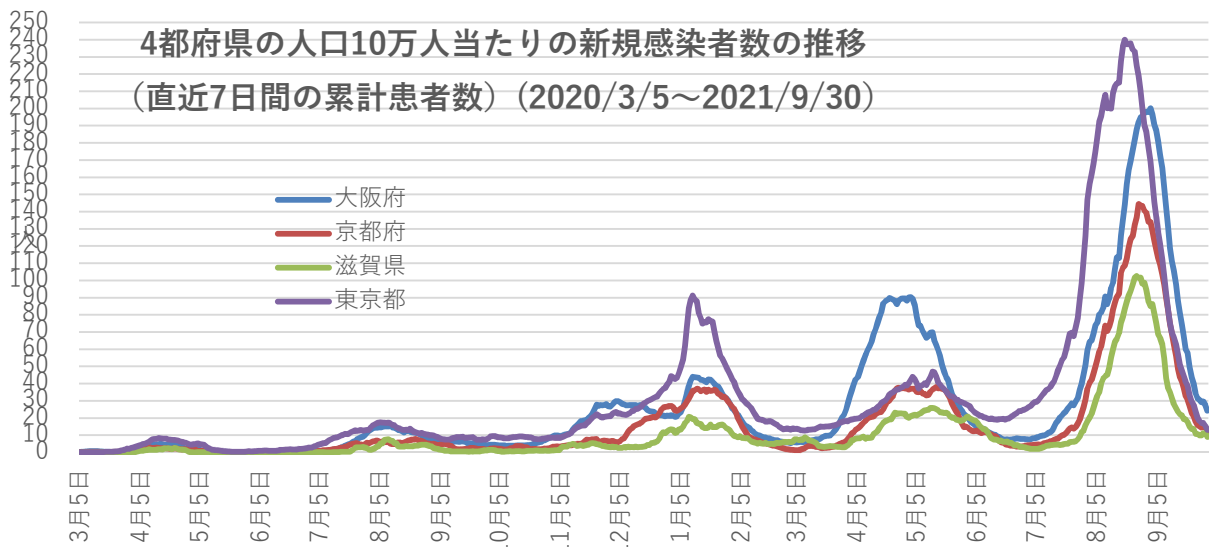
(第1波～第5波の比較)

滋賀県における新型コロナウイルス感染症の感染者は令和2年3月5日に1例目が報告されて以降、収束と拡大を繰り返し、未だ終息の兆しが見えない状況にあります。

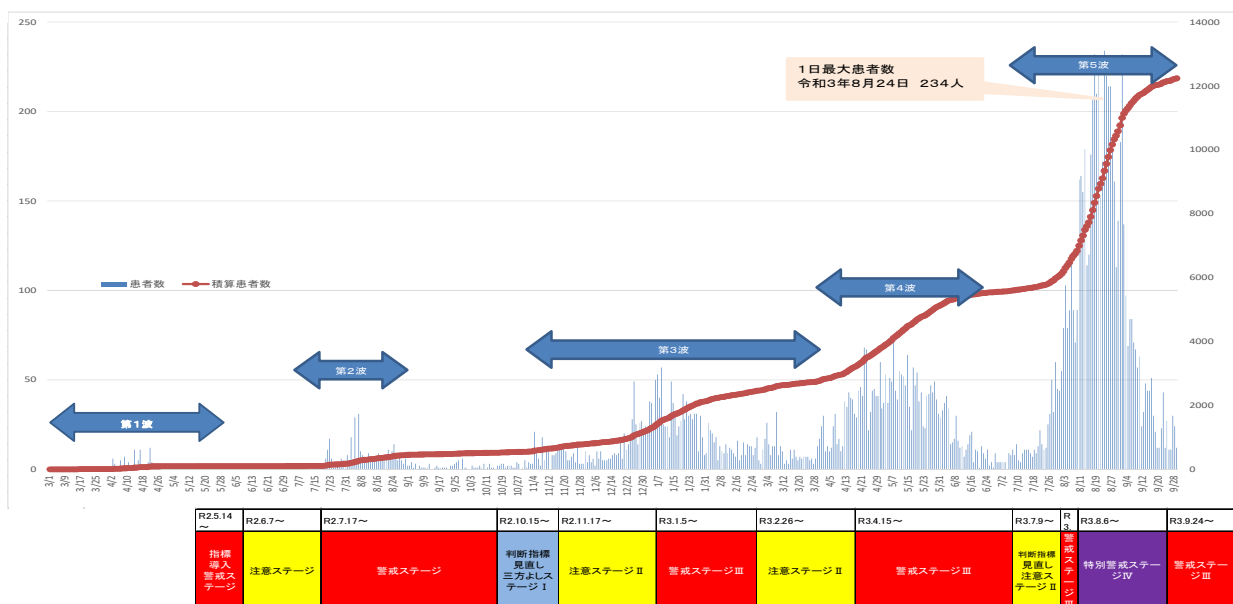
これまでの第1波から第5波の発生の状況をグラフにより取りまとめました。

○滋賀県における第1波から第5波は以下の期間とした

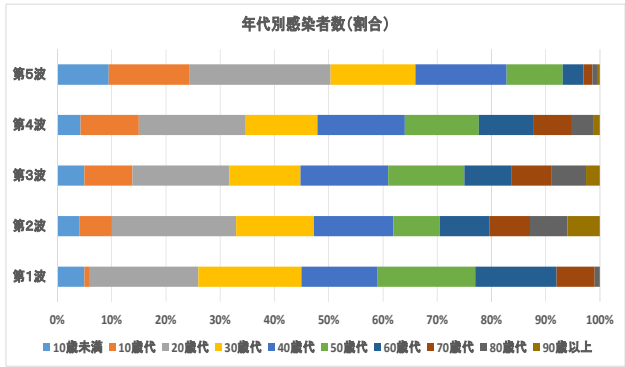
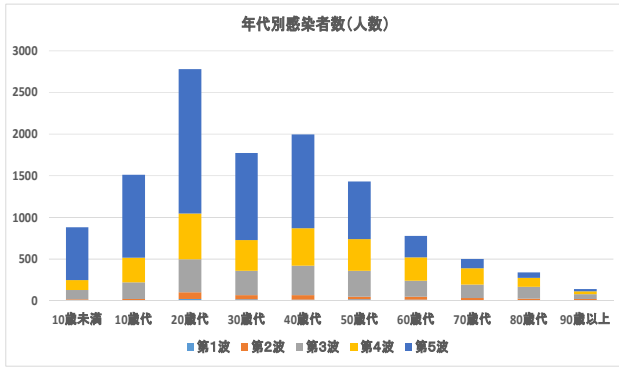
- ・第1波：令和2年3月～令和2年5月末（1例目～100例目の100人）
 - ・第2波：令和2年7月～令和2年8月末（102例目～450例目の349人）
 - ・第3波：令和2年11月～令和3年3月31日（553例目～2773例目の2218人）
 - ・第4波：令和3年4月1日～令和3年6月末（2774例目～5563例目の2785人）
 - ・第5波：令和3年7月1日～令和3年9月末（5564例目～12261例目の6684人）
- *取り下げされたものを除く



いずれの波も東京都⇨大阪府→京都府→滋賀県の順に拡大しています。



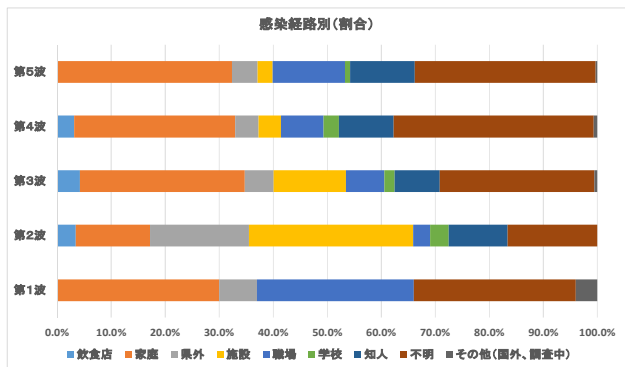
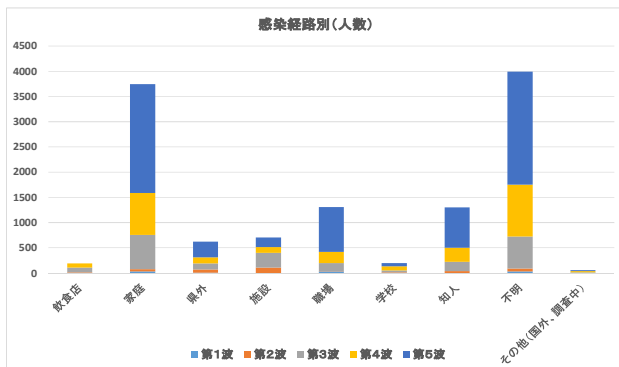
第5波は最も多くの累積患者数を認めた最大の流行となりました。特に第5波は流行の速度が速く、流行が始まってから急激に感染者数が増加しています。



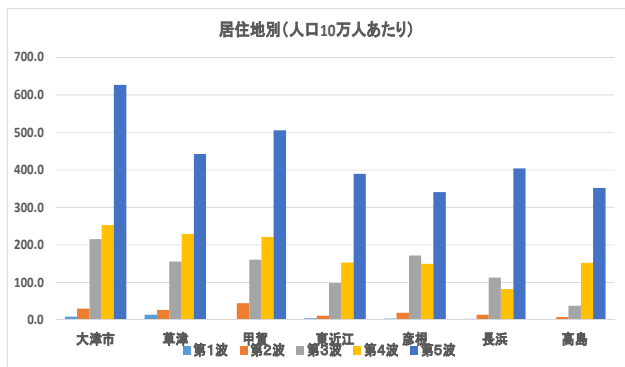
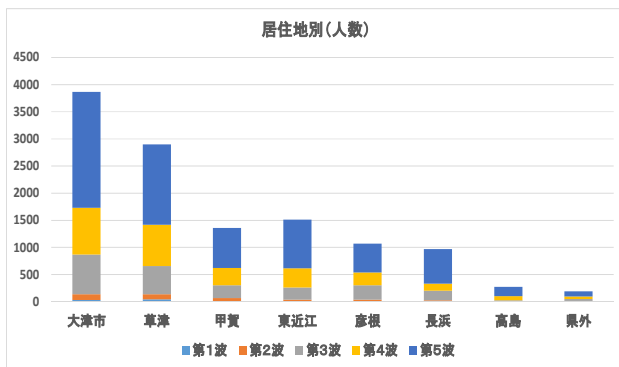
全ての波で働く世代（20代～50代）の感染者数が多く、第5波では特に顕著です（全体の69%）。

第1波から比べると、40代以下の割合が増えてきました（第1波：58% → 第5波：83%）。特に10代の増加が多くなっています（第1波：1% → 第5波：14%）

また、第1～4波までは感染者数の20～30%を占めていた60歳以上の割合が、5波では大きく減少（7%）していることが特徴的です。

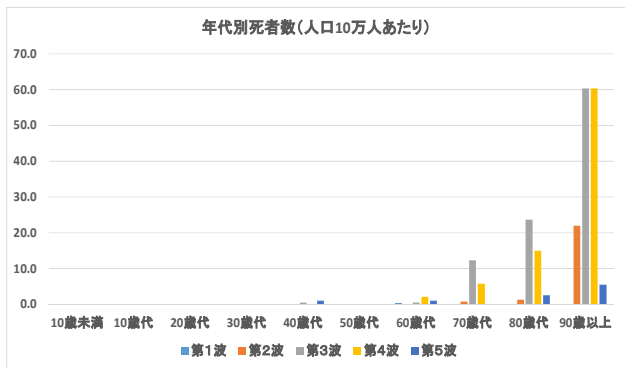
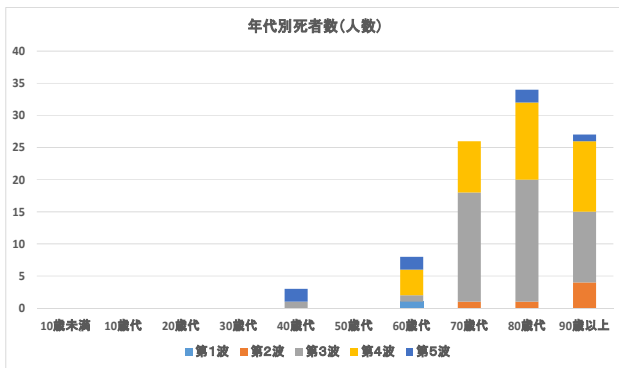


全体では、家庭（32%）および不明（34%）で、66%を占めていました。施設（高齢者施設や医療機関など）は、第4波で減少し、第5波でさらに減少しました。第5波では職場および知人が増加しました。

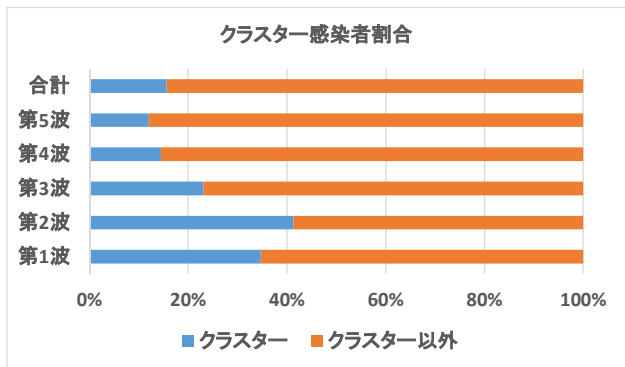
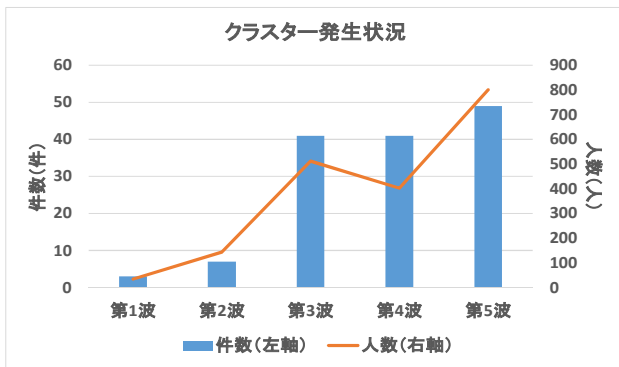


全体では大津市保健所（32%）および草津保健所（22%）管内で全体の54%を占めていました。

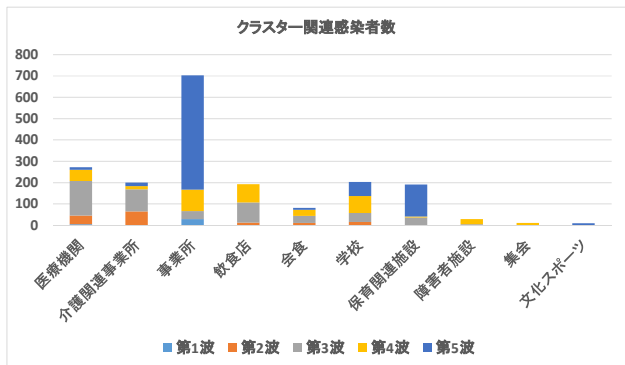
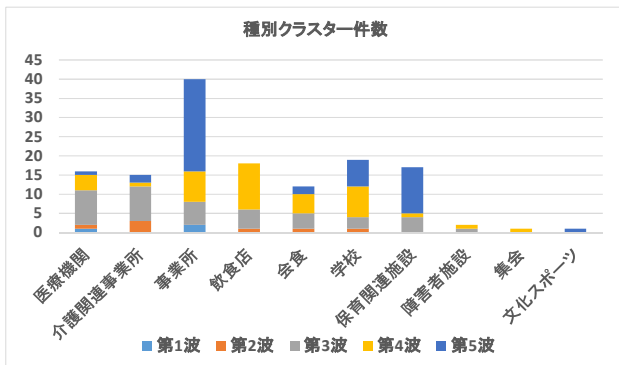
人口10万あたり感染者数は、大津市保健所（627）および甲賀保健所（507）管内で高くなっています。また、第5波では全ての地域で大きく感染者数が増加しています。



第4波までの死亡者は主に60歳以上の感染者でした。第5波では感染者数は大きく増加しましたが、60歳以上の感染者の減少に伴い、死亡者数も減少しています。



第5波では、クラスター発生件数は第4波よりも増加しましたが、クラスターの感染者の割合は第4波よりも低くなりました。また、第5波では、これまでにない規模のクラスターを認めています。



第5波では、事業所でのクラスターを事例数および感染者数ともに最も多く認めました。また、保育所でのクラスター事例が増加したことも特徴的です。一方で、過去の波では多くを占めた会食、飲食店、医療機関や高齢者施設のクラスターは減少しています。

第5波は、①感染者の増加が非常に速かったこと、②高齢者の感染者が減少したこと、③感染者に占める重症者および死亡者の割合が低下したこと、④医療機関や高齢者施設のクラスター事例が少なかったこと等が全国で共通する特徴といえます。これらの特徴の背景には、デルタ株が流行した一方で、ワクチンによる感染予防、発症予防および重症化予防、抗体カクテル療法による重症化予防などがあったことが考えられます。

今後も、新たなワクチンや重症化・死亡の予防が期待されている内服薬など、利用できる「武器」が増えていくことが予想されます。対策の継続は必要ですが、少しずつ社会活動を再開させるための準備が進められていくことと思います。